

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業 建設整備事業

事務事業の段階

計画 事業化 事業 管理

個07事01

政策名	1 グローバルロジスティクスの港	23年度事業・個別施策評価結果 (今後の取組みの方向性)			責任者	企画調整室 企画担当課長
基本施策名	01 国際・国内海上輸送機能の強化	事務事業	成果	コスト	連絡先 連携課	052-654-7968
個別施策名	07 ポートマーケティング機能を強化する					
事務事業名	01 日本港湾経済学会中部部会における調査研究	継続	維持	維持	事業期間	昭和46年度～継続
目的	調査研究結果を港湾運営、経営戦略に活用してもらいます。				根拠 法令等	日本港湾経済学会中 部部会会則
概要	日本港湾経済学会中部部会の事務局として、理事会・総会の準備、研究報告の取りまとめなどをおこない、中部地区港湾の貿易・物流動向を調査研究します。				実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
24年度の実施予定	中部部会理事会の開催(6月1日)、中部部会(総会・研究報告会)の開催(8月28日) 日本港湾経済学会全国大会(第51回)への出席(8月29日～31日) 中部地区の港湾を対象とした諸問題に関する調査研究				関連 シート	

2 DO(実施)

24年度に実施した 内容・結果	24年度は、6月1日「日本港湾経済学会中部部会理事会」、8月28日「日本港湾経済学会中部部会(研究報告会・総会)」を開催し、3つの研究報告のとりまとめをおこないました。また、8月29日～31日に京都府の同志社大学で開催された「第51回日本港湾経済学会全国大会」に日本港湾経済学会の法人会員及び役員(評議員)として参加しました。また、25年3月18日にはIHI名古屋事業所への工場見学を行い26名の参加がありました。						
コスト(年度)	単位	20(実績)	21(実績)	22(実績)	23(実績)	24(実績見込)	備考(款項目節等)
事業費 計	千円	618	606	344	595	589	(款項目節) 歳出: 企画調整費/企画調整管理費/企画調整総務費/委託料、印刷製本費、負担金、旅費
一般会計	千円	618	606	344	595	589	(算出計算式) 130,000 × 3 = 390,000、116,000、40,000、42680
事業会計	千円						
その他	千円						
人員費 計	千円	4,385	4,548	5,089	5,603	5,230	(その他)
正規職員	人	0.50	0.53	0.60	0.65	0.60	
嘱託職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
合計	千円	5,003	5,154	5,433	6,198	5,819	

3 CHECK(検証)

活動・成果 指標	年度	20	21	22	23	24	中間目標	24	備考(指標の算定方法など)
調査研究件数(件)	目標	3	3	3	3	3		3	①名古屋港における選択要因と災害による経済波及効果の研究 ②名古屋港を起点としたサプライチェーンネットワークの評価 ③ECFAの締結にともなう貿易・物流の変化
	実績	3	3	3	3	3			
	達成率(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0			
	達成率(%)	-	-	-	-	-			
研究報告会の参加者数(人)	目標	70	70	70	70	70		70	研究報告会の参加者数を把握することで、調査研究への関心度を把握します。
	実績	60	62	67	75	61			
	達成率(%)	85.7	88.6	95.7	107.1	87.1			
	達成率(%)	-	-	-	-	-			
必要性・有効性・効率性の確認		判断理由(課題の抽出)						その他特記事項	
必要性	どうしても必要な事業か?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □						港湾運営に活かす為に調査研究を行っています。	
	利用者のニーズは高いか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
	本組が関与する必要があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
有効性	目的や目標の水準は妥当か?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □						港湾を取り巻く環境は目まぐるしく変化しており、経済の観点から調査研究に取り組んで行くことで、有効性は発揮されていると判断しています。	
	目標を達成したか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
	個別施策へ貢献したか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
効率性	最小のコストで成果をあげているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □						研究報告は港湾経済についての専門家に依頼しているので効率的です。	
	受益者に適正に負担させているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
	効率的な運営主体となっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							

4 ACTION(取組)

個別施策評価結果による 今後の取組みの方向性	事務事業	成果	コスト	判断理由
	継続			港湾物流に関する学術的、学際的な研究は必要であるため。
個別施策評価結果を踏まえた来年度以降の取組み				
本港における現在の取組および課題などについて、調査研究者と情報交換を図ることにより、調査研究内容の更なる充実を図ります。中部部会の専用ホームページやニュースレター(E-mail)により活動内容を幅広くPRし、研究報告会の参加者数および会員数の増加を図ります。				